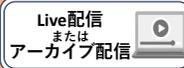


☆ 発明者をどのように認定する？－発明者と出願人の考え方、国際動向、最近の事例

セミナーNo.406111

☆ どんな特許を取得すべきか？－特許取得のための要件、要求される進歩性、開示、広く強い特許とは？

AIによって開発された 医薬・診断技術の特許申請・知財保護戦略



- 日 時: 2024年6月4日(火) 10:30~16:30 ●聴講料: 1名につき 55,000円(消費税込、資料付)
- 会 場: Zoomを使用したLive配信 ※Live配信から [1社2名以上同時申込の場合のみ1名につき49,500円(税込)]
7営業日後を目安にアーカイブ配信いたします。 [大学、公的機関、医療機関の方には割引制度(アカデミック価格)があります。]
- 講師: 青山特許事務所 東京オフィス 顧問弁理士 加藤 浩 氏

【講座主旨】 近年、生成AIが急速に進化・普及する中、生成AIを活用した創薬・診断技術への期待が高まっています。例えば、標的探索AI、論文探索AI、ドラッグリポジショニングなどを利用した基礎研究や、バーチャル治験、臨床試験予測などの臨床応用などが注目されています。
このような状況の下、国内外のプロジェクトにおいて、生成AIを活用した創薬・診断技術が試行されており、企業・研究所等においても、生成AIの活用が急務となっています。
生成AIを創薬・診断技術に活用したり、その研究成果を実用化するためには、特許の取得と活用が必要不可欠です。とくに、生成AIを活用した特許戦略は、今後の研究活動や事業活動にとって有益です。

また、AIが発明に貢献した場合、AIは自然人でも法人でもないため、発明者の特定について十分な検討が必要です。とくに、これまでの国内外の議論や事例に基づいて、発明者を的確に特定することが重要です。

本講演では、このような視点から、生成AIを活用した創薬・診断技術における特許戦略の新たな視点について説明し、今後の課題と対応策について解説します。

【講座内容】

1. 生成AIを活用した創薬・診断技術の現状と課題

- 1.1 生成AIを活用した創薬・診断技術の現状
- 1.2 創薬・診断技術に利用されるAI技術の現状
- 1.3 今後の動向と課題 (ChatGPT-4, Apple GPT, Google Bard/Gemini, AlphaFold2など)

2. 生成AIを活用した創薬・診断技術の特許動向

- 2.1 生成AIを活用した基礎研究の特許動向
(標的探索AI、論文探索AI、ドラッグリポジショニング、バーチャルスクリーニング、インシリコ創薬など)
- 2.2 生成AIを活用した応用研究の特許動向
(バーチャル治験、臨床試験予測、前臨床試験予測、Virtual Experimentsなど)
- 2.3 創薬・診断技術に利用されるAI技術の特許動向
(二次元マッピング解析、パスウェイマップ、重複差分解析、多面的解析、ベクトル加算解析など)

3. 特許を視野に入れた研究開発戦略 (AI創薬を中心に)

- 3.1 特許出願のタイミング
(新規な標的物質、医薬用途、DDSなどの特許出願戦略)
- 3.2 研究開発に必要な特許調査
(生成AIと創薬・診断技術の融合領域の特許調査の手法と留意点)
- 3.3 製薬分野とAI関連分野との連携の在り方
(医工連携、産学官連携の在り方など)

4. 発明者をどのように認定すべきか

- 4.1 発明者と特許出願人の考え方
- 4.2 生成AIによる発明の発明者と特許出願人について
- 4.3 生成AIによる発明の発明者に関する国際的な議論
- 4.4 生成AIによる発明の発明者に関する最近の事例

5. どのような特許を取得すべきか(審査基準からの考察)

- 5.1 特許を受けるための要件
- 5.2 どの程度の進歩性が要求されるのか
- 5.3 どの程度の開示(実施例)が要求されるのか
- 5.4 広く強い特許とはどのような特許か
- 5.5 特許審査への対応について
(拒絶理由への対応方法、面接審査の活用方法、拒絶査定を回避する方法など)

6. どのような発明に特許が付与されるのか(審査事例集からの考察)

- 6.1 癌レベル算出装置(進歩性)
- 6.2 認知症レベル推定装置(進歩性)
- 6.3 糖度推定システム(記載要件)
- 6.4 体重推定システム(記載要件)
- 6.5 被験物質のアレルギー発症率の予測方法(記載要件)

7. 生成AIを活用した創薬・診断技術の登録特許の事例分析

- 7.1 登録クレームの最近の傾向
- 7.2 日米欧の登録クレームの比較
- 7.3 必要な実験データの開示の程度
- 7.4 発明の効果の主張方法
- 7.5 最適な特許明細書・クレームの提案

【質疑応答】

●申込方法

- 1. 申込書が届き次第、請求書・聴講券・会場案内図をお送りいたします。
- 2. お申し込み後はキャンセルできません。
受講料は返金いたしませんので、ご都合の悪い場合は代理の方がご出席ください。

「AI医薬・診断技術」セミナー申込書

(Live配信/アーカイブ配信 下記のいずれかに☑を入れてください)

- Live配信 (No.406111) 開催日: 6/4
- アーカイブ配信 (No.406162) 配信期間: 6/13~6/23

・申込書に必要事項をご記入の上、FAX (03-5436-5080) にてお申込みください。

・ホームページからも申込できます。 <https://www.gijutu.co.jp/>

| | | | |
|-------------------------------------------------------------------------|---------|-------------------------|--------|
| 会社名 | 事業所・事業部 | | |
| 住所 | 〒 | | |
| TEL | FAX | | |
| | 所属部課 | 氏名(フリガナ) | E-mail |
| 受講者1 | | | |
| 受講者2 | | | |
| 今後ご希望しない案内方法に×印をしてください(現在案内が届いている方も再度ご指示ください) [郵送(宅配便)・FAX・e-mail] | | | |
| 個人情報の利用目的 | | | |
| ・セミナーの受付、事務処理、アフターサービスのため | | ・今後の新商品、新サービスに関するご案内のため | |
| ・セミナー開催、運営のため講師へもお知らせいたします | | | |



TECHNICAL INFORMATION INSTITUTE CO.,LTD.

申込専用FAX 03-5436-5080

- 3. 申込み人数が開催人数に満たない場合等、状況により中止させて頂く場合がございます。
- 4. 定員になり次第、申込みは締切となります